

More Imperial
than ever

13th

歴史にふさわしく
未来にふさわしく

第180期 中間報告書

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日



帝国ホテル

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよろこび申しあげます。

平素は格別のご高配を賜り、ありがたく厚く御礼申しあげます。

ここに当社第180期中間期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の報告書をお届けし、当社グループの営業の概況についてご報告いたします。

さて、本年11月3日、帝国ホテルはおかげさまでもちまして開業130周年を迎えることができました。これは、ひとえに株主の皆様やお客様の日頃のお引き立てとご支援のたまものと深く感謝申しあげます。しかしながら、当社グループにおきましては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による未曾有の影響を受け、多大な損失を被ったことにより、中間配当につきましては誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきます。何卒ご理解のうえご了承賜りますようお願い申しあげます。

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ先行きが見えない状況ではありますが、一日も早い終息を願うとともに、この難局を乗り越えるべくアフターコロナを見据え万全な準備を整え、新たな時代に向けた挑戦へグループ一丸となって邁進してまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。



代表取締役社長 さだ やす ひで や 定保 英弥

目次

1
株主の皆様へ

2~3
営業の概況

4
中間連結財務諸表

5
Topics

6
会社情報

営業の概況 (文中の増減率は、全て前年同期比で記載しております。)

当中間期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や政府の緊急事態宣言に伴う経済活動の停止により景気は急激に悪化し、企業収益の激減や雇用所得環境が大きく変容するなど極めて厳しい状況となりました。

ホテル・観光業界は最も深刻で直接的影響を受け、渡航制限によりインバウンド需要が一気に消滅し、政府の外出やイベントの自粛要請に伴い営業活動の大幅な縮小を余儀なくされるなど、過去に例を見ない危機的な状況に直面いたしました。

このような未曾有の状況のもと、当社グループにおきましては、顧客と従業員の安全と安心の確保を最優先課題と捉え、ホテル主催イベントの自粛や食堂の店舗休業ならびに営業時間短縮など、政府方針に則った感染防止策を講じるとともに、全従業員に対してはマスク着用や手洗い消毒の徹底、罹患リスクを避けるべく最小限の出勤体制を執るなど感染拡大防止に鋭意取り組んでまいりました。

また、社長を委員長とした「運営再開準備委員会」を設置し、感染防止策や新常态(ニューノーマル)における新しいサービス方法を全従業員から募り、「インペリアルバイキング サール」において「新しい生活様式」に対応したバイキングスタイルの導入に繋げるなどグループ一丸となってこの難局を乗り越えるべく努めてまいりました。

しかしながら大幅な営業縮小の影響等により宿泊、食堂、宴会ともに売上げが激減し、帝国ホテル本社の売上高は68.2%減の6,726百万円、帝国ホテル大阪の売上高は73.7%減の1,293百万円となり、上高地帝国ホテルも営業期間短縮により売上高は63.8%減の380百万円となりました。

以上の結果、その他事業所を含めた当中間期における当社グループの売上高は68.8%減の8,553百万円となり、経常損失は4,569百万円、親会社株主に帰属する中間純損失は7,521百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、政府主導の各種経済対策の効果が期待されますが、新型コロナウイルス感染症の拡大は未だ終息が見えず、景気は依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

ホテル・観光業界におきましても、政府の観光支援事業「Go To トラベルキャンペーン」等への期待感もありますが、訪日外国人客が以前の水準に戻るまでには相当な時間を要するものと予測され、宴会利用などの国内需要の回復も当面見込めず、依然として極めて厳しい経営環境が継続するものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループの全事業所において業績の改善には厳しい状況が見込まれますが、国内顧客の利用増に向けた販売促進を積極的に展開し、売上げの回復に全力を注いでまいります。

また、業務効率の向上を徹底し、全社的なコストを抜本的に見直すことはもとより、政府が行う様々な経済対策や支援策も活用しながら経費執行を必要最小限に止め、収益の確保にグループ一丸となって注力してまいります。

さらに、従業員の社会生活の基盤となる安定した雇用の継続に努めるとともに、引き続き顧客と従業員の安全、安心の確保を最優先課題とし、手洗いや「三密」の回避などの感染防止策を徹底してまいります。

最終年度となる「中期経営計画2020」につきましては、引き続き4つの重点課題に取り組み、「ソフトウェア」「ヒューマンウェア」の研鑽に努め、感染症の終息を見据えて現場力の強化に注力するとともに、「新しい生活様式」に対応した各種サービスの提供や新たな価値創造に努め、来る東京オリンピック・パラリンピックに向けて万全な態勢を整えてまいります。

同時に、SDGs(持続可能な開発目標)を積極的に推進するべく体制を整備し、環境対策や働き方改革など新たな時代の要請に応じた企業活動の遂行に努め、さらなる企業価値向上と持続的成長を目指してまいります。



帝国ホテル 東京



帝国ホテル 大阪



上高地帝国ホテル

中間連結財務諸表 (要旨)

中間連結貸借対照表

(百万円)

科目	当中間期末 (2020年9月30日現在)	前期末 (2020年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	38,546	43,926
固定資産	30,955	35,645
有形固定資産	18,295	18,647
無形固定資産	1,188	1,186
投資その他の資産	11,472	15,812
資産合計	69,502	79,572
(負債の部)		
流動負債	4,511	6,429
固定負債	12,443	12,516
負債合計	16,955	18,945
(純資産の部)		
株主資本	52,379	60,375
その他の包括利益累計額	167	251
純資産合計	52,547	60,627
負債及び純資産合計	69,502	79,572

(注)記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(百万円)

科目	当中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	前中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
売上高	8,553	27,381
材料費	1,319	5,350
販売費及び一般管理費	13,938	19,939
営業利益又は営業損失	△6,704	2,091
営業外収益	2,135	101
経常利益又は経常損失	△4,569	2,193
税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失	△4,569	2,193
法人税等	2,952	676
中間純利益又は中間純損失	△7,521	1,517
親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失	△7,521	1,517

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	当中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	前中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,236	1,693
投資活動によるキャッシュ・フロー	△365	1,166
財務活動によるキャッシュ・フロー	△473	△533
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,075	2,325
現金及び現金同等物の期首残高	37,231	32,768
現金及び現金同等物の中間期末残高	31,155	35,094

TOPICS

より美味しくより安全に、五感で楽しむ バイキングとして生まれ変わりました。

帝国ホテルは、定額で“好きなものを好きなだけ味わう”所謂「バイキング」スタイルを日本に紹介し、ブフェレストランの先駆けとして60年以上にわたりお客様に愛されてまいりました。

2020年8月1日の「バイキングの日」に、時代に即した安全・安心対策で、当初のコンセプトを守りながら“出来立てのおいしさをお客様に味わっていただく”という料理の本質を追求した、新しいレストランに生まれ変わりました。

「オーダーバイキング」スタイル

三密回避のため、客席からタブレット端末でご注文いただける「オーダーバイキング」スタイルを導入。出来立ての料理をスタッフがお届けするのでゆったりお食事や会話をお楽しみいただけるようになりました。このスタイルの採用によりフードロス削減の更なる推進にも繋がり、環境への配慮もかなえています。



臨場感溢れるバイキング

新設したライブモニターで料理が出来上がる過程をご覧いただけるほか、シェフが客席に出向き目の前で料理を仕上げたり、ディナータイムにはデザートコーナーでの炎の演出があったりと、“味覚”にとどまらない楽しさをご提供いたします。



※ブフェステージのお料理にはカバーを設置し、店内の換気回数を増やすなど感染症拡大防止に努めております。

新しいバイキングで皆様のお越しをお待ちしております。

ご予約・お問い合わせ

ブフェレストラン インペリアルバイキング サール

TEL 03-3539-8187

会社情報 (2020年9月30日現在)

会社の概要

商号	株式会社帝国ホテル Imperial Hotel,Ltd.
住所	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号
設立年月日	1887年12月10日
開業年月日	1890年11月3日
資本金	14億8千5百万円
主要な事業所	帝国ホテル本社(東京都千代田区) 帝国ホテル大阪(大阪府大阪市) 上高地帝国ホテル(長野県松本市) ザ・クレストホテル柏(千葉県柏市)
ホームページアドレス	https://www.imperialhotel.co.jp

株式の状況

発行可能株式総数	192,000,000株
発行済株式総数	59,400,000株 (自己株式 62,956株を含む)
株主数	4,988名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数
三井不動産株式会社	19,700千株
アサヒビール株式会社	3,408
株式会社大和証券グループ本社	3,045
株式会社みずほ銀行	2,952
日本生命保険相互会社	2,918
富国生命保険相互会社	2,654
サッポロビール株式会社	2,500
清水建設株式会社	2,500
第一生命保険株式会社	2,338
鹿島建設株式会社	2,300

(注)持株数の千株未満は切捨てて表示しております。

取締役及び監査役

代表取締役社長	社長執行役員	定保英弥	
代表取締役常務	常務執行役員	徳丸淳	
常務取締役	常務執行役員	金澤陸生 風間淳	
取締役		秋山智史 筒井義信 斎藤勝利 上條努 日比野隆司 小野澤康夫 小路明善	
		常務執行役員	幸田雅弘 金尾幸生
		執行役員	古谷厚史
		常勤監査役	宮新朋明 中山こずゑ
監査役		仲浩史 石神裕之	

執行役員

加藤俊也 松田喜則 高橋義幸 今井徹

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	上場取引所	株式会社東京証券取引所 市場第二部
定時株主総会	6月下旬	公告の方法	電子公告の方法により行います。 (https://www.imperialhotel.co.jp) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
剰余金の配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日		
株主名簿管理人及び特別口座口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式に関する手続きについて

証券会社でお取引をされている株主様

お問合せ先 お取引のある証券会社

特別口座に記録されている株式をお持ちの株主様

お手続き問合せ先 〒168-8507

東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-288-324 (フリーダイヤル) (ご利用時間：土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

みずほ信託銀行 本店および全国各支店

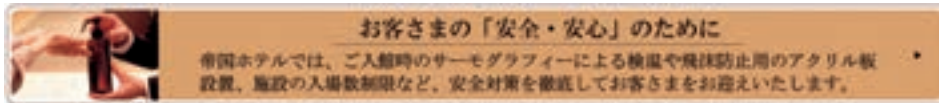
*トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

みずほ証券 本店および全国各支店

プラネットブース (みずほ銀行内の店舗)

未払い配当金のお支払につきましては、上記両株主様ともにみずほ信託銀行およびみずほ銀行にて承ります。
(みずほ証券では取次のみとなります)

詳しくは下記QRコードより
当社ホームページをご覧ください



帝国ホテルはSDGs(持続可能な開発目標)を支援しています。



エコマーク認定
帝国ホテル
Eco Mark certification
Imperial Hotel

